

# 平成19年度 病害虫発生予察情報

## 発生予報第2号（5月）

平成19年4月27日  
島根県

予報の概要			
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや多い
		赤かび病	平年並
イネ		うどんこ病	やや多い
		ヒメトビウンカ	やや少ない
		ニカメイチュウ	やや少ない
		ツマグロヨコバイ	多い
		イネミズゾウムシ	平年並
果樹	ナシ	黒斑病	平年並
		黒星病	やや多い
		シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	やや多い
		ハダニ類	やや多い
野菜	カキ	カキクサアザミマ	平年並
	タマネギ	ポトリ糸菌による葉枯れ	平年並
		べと病	やや少ない
	イチゴ	腐敗病・軟腐病	やや多い
		灰色かび病	やや多い
		アブラムシ類	平年並～やや多い

中国地方1か月予報（4月21日～5月20日・広島地方气象台4月20日発表）  
向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並みの見込みです。

### A. 普通作物

#### 1) ムギ

##### (1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや多い

予報の根拠

①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率4.5%（平年0.9%）、  
発病茎率2.1%（平年0.1%）で平年に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、  
発生を抑制する要因とはならない。

##### (2) 赤かび病

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

平年並

予報の根拠

①ムギの出穂は平年に比べて早い。

②4月24日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年  
並みである。

③向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

##### (3) うどんこ病

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや多い

①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率6.0%（平年値1.7%）、  
発病茎率1.1%（平年値0.4%）で平年に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は本病の発生を抑制する要因とはならない。

#### 2) イネ

##### (1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方

県下全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
- ② 4月中旬のすくい取り調査では、捕獲数は0頭（平年0.15頭/20回振）、発生圃場率は0%（平年6.3%）で発生量は平年に比べて少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の発生に助長的である。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生時期 やや早い  
 発生量 やや少ない

- 予報の根拠
- ① 前年の第2世代成虫発生量は平年比7%で、越冬量は少ないと考えられる。
  - ② 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
  - ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(3) ツマグロヨコバイ

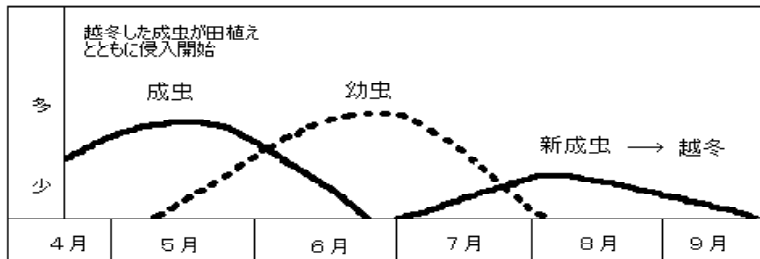
予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 多い

- 予報の根拠
- ① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
  - ② 4月中旬の圃場すくい取り調査では、捕獲数は4.6頭（平年1.7頭/20回振）、発生圃場率は90%（平年43.6%）で発生量は平年に比べて多い。
  - ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生時期 早い  
 発生量 平年並

- 予報の根拠
- ① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
  - ② 前年の新成虫の誘殺数は平年並み（平年比76%）で、本年の越冬量は平年並みと考えられる。
  - ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。



B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容  
 発生地方 県下「二十世紀」栽培地帯  
 発生量 平年並

- 予報の根拠
- ① 4月26日現在、県予察圃場では発病を確認していない。
  - ② 4月24日の巡回調査（安来地区）では発病を確認していない。
  - ③ 向こう1か月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容  
 発生地方 県下ナシ栽培地帯  
 発生量 やや多い

- 予報の根拠
- ① 4月26日現在、県予察圃場では発病を確認していない。
  - ② 4月24日の巡回調査（安来地区）では、葉での発生は確認していないが、8圃場中3圃場で幼果での発病が散見された。
  - ③ 向こう1か月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。



ナシ幼果に発生した黒星病

(4) シンクイムシ類

予報内容  
発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生時期 やや早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 初飛来日は4月2日で平年並みである。
- ② 前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多いと考えられる。
- ③ フェロモントラップ（安来市）でのナシヒメシンクイの誘殺数はやや多い。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(5) ハマキムシ類

予報内容  
発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生時期 やや早い  
発生量 やや多い

予報の根拠

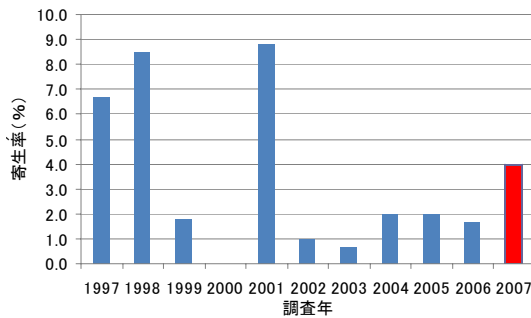
- ① 初飛来日は4月1日で平年並みである。
- ② フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数はやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(6) ハダニ類

予報内容  
発生地方 県下ナシ栽培地帯  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
- ② 4月下旬の巡回調査（安来市）では寄生花そう率は4.0%（平年3.3%）とやや高い。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。



ナシの類花叢におけるハダニ類の寄生率の推移

3) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容  
発生地方 県下カキ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
- ② 4月26日の巡回調査では巻葉被害が認められない。
- ③ 向こう1か月の気象は気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容  
発生地方 県下全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率7.1%（平年値12.7%）、発病株率0.3%（平年値0.3%）で平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、気温は高く、降水量は平年並みと予想されており、発生を助長する要因とはならない。

- (2) ベと病  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 やや少ない  
 予報の根拠  
 ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率3.6%（平年値11.9%）、  
 発病株率0.1%（平年値0.4%）で平年に比べてやや少ない。  
 ②向こう1か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

- (3) 腐敗病、軟腐病  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 やや多い  
 予報の根拠  
 ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率78.6%（平年値68.1%）、  
 発病株率3.0%（平年値2.4%）で平年に比べてやや多い。  
 ②白色疫病の発生量が平年に比べて多かったため、侵入門戸となりやすい。  
 ③向こう1か月の気象は、本病の発生を抑制する要因とはならない。

2) イチゴ

- (1) 灰色かび病  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 やや多い  
 予報の根拠  
 ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率42.9%（平年値40.5%）、  
 発病株率4.6%（平年値2.5%）で平年に比べてやや多い。  
 ②向こう1か月の気象は気温が高く、降水量は平年並み、日照時間は多いと予想  
 されており、本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

- (2) アブラムシ類  
 予報内容  
 発生地方 県下全域  
 発生量 平年並～やや多い  
 予報の根拠  
 ①4月下旬の調査では、発生圃場率は30.0%（平年22.6%）、寄生株率は5.0%（平  
 年6.3%）で発生量はほぼ平年並みである。  
 ②向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。  
 農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）  
 〒693-0035 出雲市芦渡町2440  
 TEL 0853-22-6772  
 FAX 0853-24-3342  
 e-mail ksmn0301@sp.jpnpn.ne.jp